

イベントログ機能について

新機能「イベントログ機能」についてご説明いたします。

バージョン1.44から、検索実行中の内容を処理時刻ごとにイベントログファイルに記録するようにしました。

イベントログを記録することで、検索処理が何らかの理由で異常終了してしまった場合に、後からどのファイルまで処理されていたのかを確認することができます。

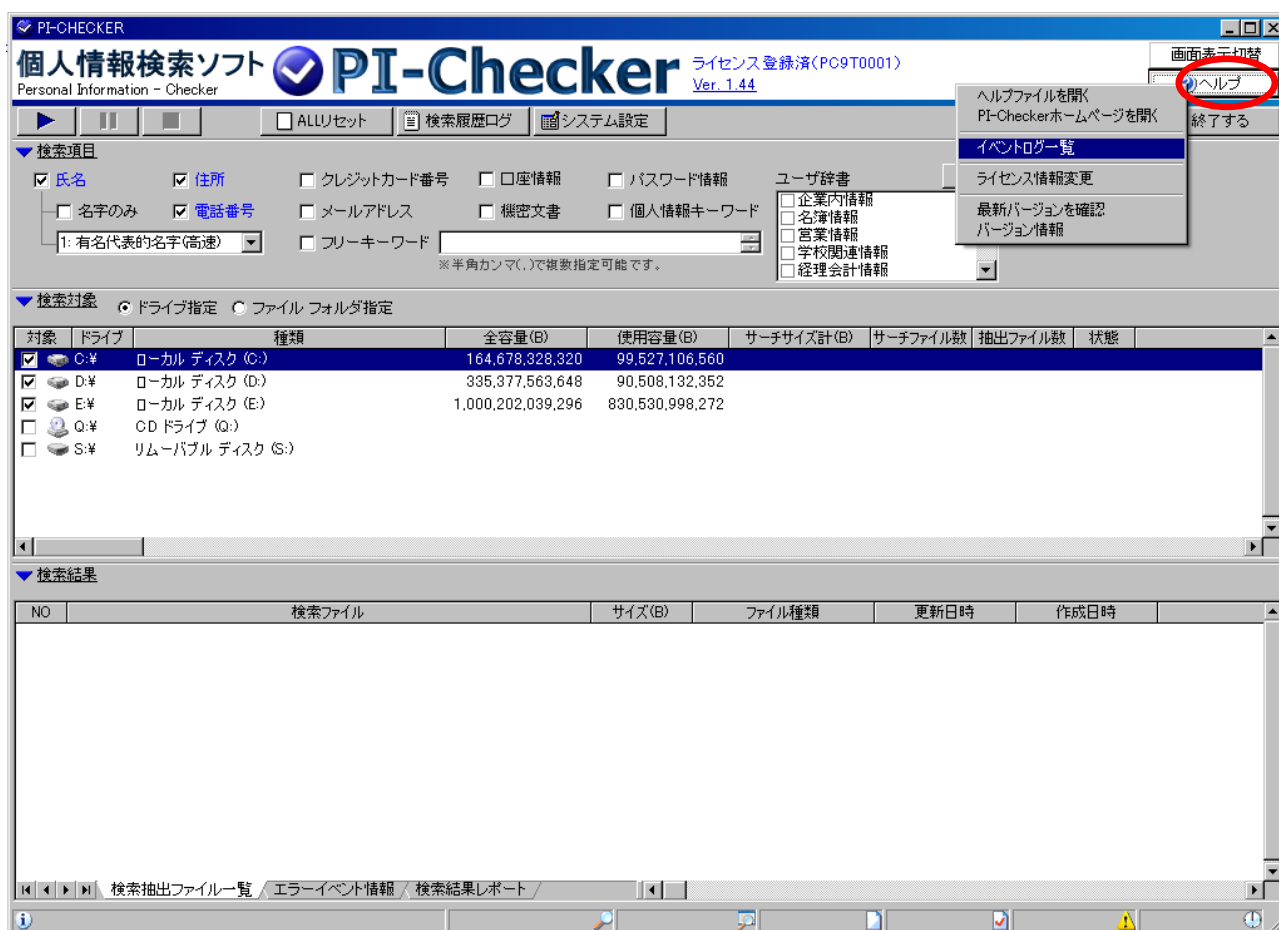
イベントログファイルは、下記のフォルダにテキストファイル形式で保存されます。

C:\¥PI-CHECKER¥EVENTLOG¥

※イベントログのファイル名は、検索履歴ログと同様に[検索処理 ID]+[.TXT]です。

イベントログを確認する方法は次の通りです。

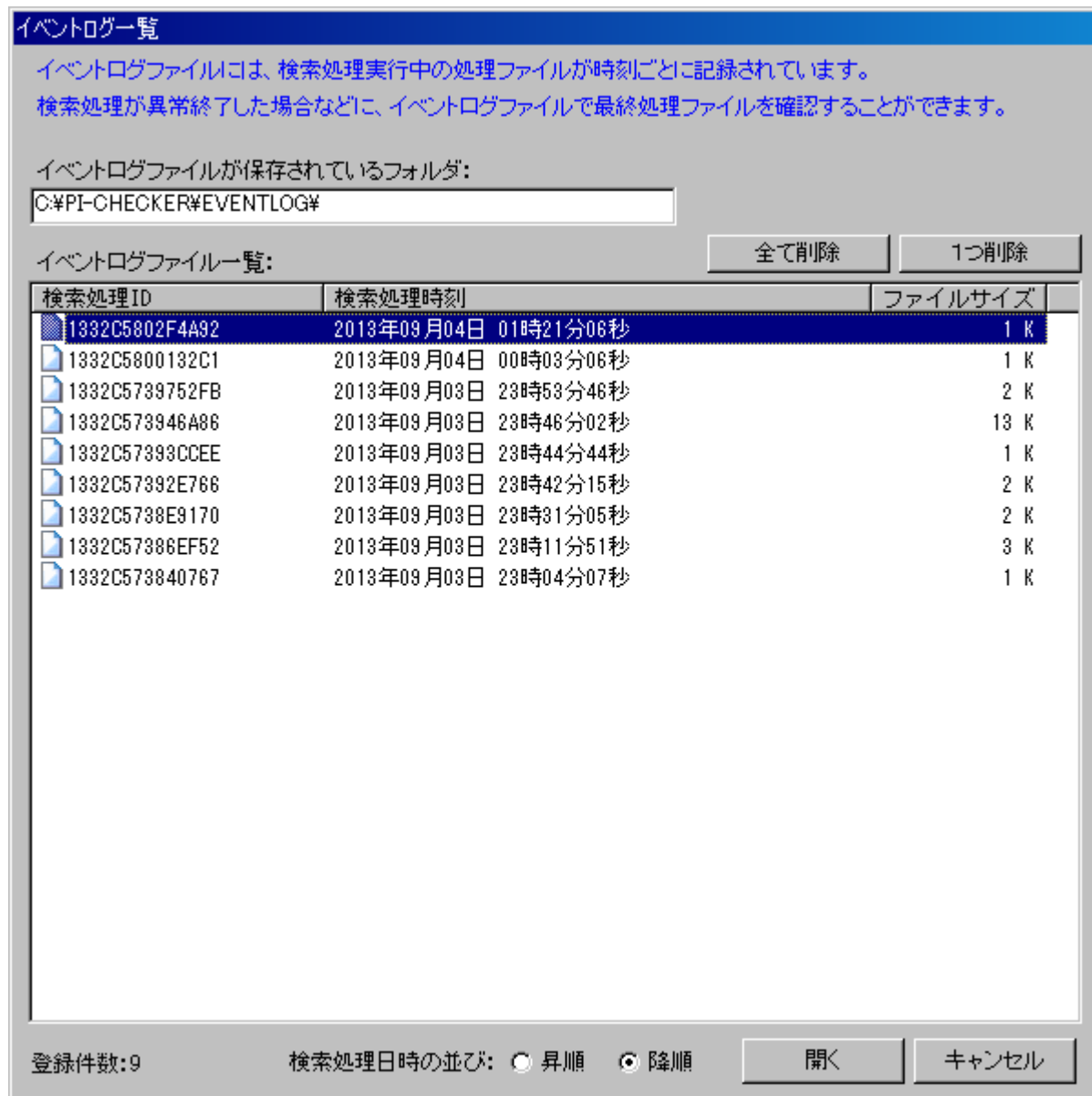
① メイン画面



メイン画面のヘルプボタンをクリックします。

表示されたメニューからイベントログ一覧を選択します。

② イベントローグ一覧画面



イベントローグ一覧画面が表示されます。

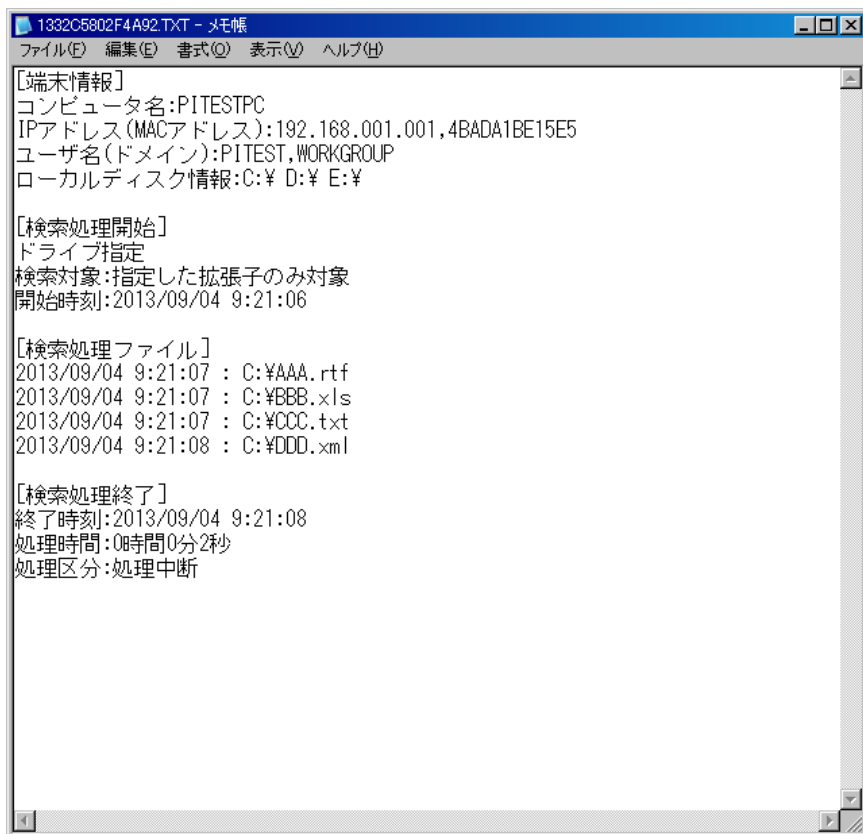
確認したいイベントローグをマウスで選択し、ダブルクリックか開くボタンを押して下さい。

イベントローグの内容がメモ帳で表示されます。

全て削除…記録されているイベントローグファイルを全て削除します。

1つ削除…選択されているイベントローグファイルを削除します。

③ イベントログファイルの見方



イベントログファイルは、次の4つのブロックで構成されています。

[端末情報]	...	端末情報
[検索処理開始]	...	検索処理開始時刻など
[検索処理ファイル]	...	検索処理時刻と検索処理ファイル名
[検索処理終了]	...	検索処理終了時刻など

処理が正常に終了した場合は、4つのブロックがすべて書き込まれます。

しかし、異常終了した場合は、[検索処理ファイル] までの3つのブロックまで書き込まれます。

[検索処理ファイル] ブロックの最後の行が、異常終了直前の処理ファイルになります。

その処理ファイルやフォルダを確認して頂き、異常終了の原因究明の糸口にお役立て下さい。

備考：異常終了が考えられるケース

- | | |
|--------------------|--|
| (1) 論理的なハードディスクの破損 | → OSのチェックディスクを実行して修復を試みて下さい。 |
| (2) 物理的なハードディスクの障害 | → 不良クラスタなどが存在しないかチェックディスクで診断して下さい。 |
| (3) メモリ不足 | → 処理中にメモリ不足になるような他のアプリケーションを起動させない。 |
| (4) 実行環境の空き容量不足 | → Cドライブの空き容量を確認して下さい。 |
| (5) その他の原因 | → 異常終了時（最終検索処理時刻）にOSのイベントビューワのログでエラーが発生していないかを確認して下さい。 |

以上